

第3章 平成30年度事業計画

目次

概要	-----	58
1 活動計画	-----	58
2 会議・会合	-----	60
3 粉体工業展	-----	60
4 常置委員会	-----	62
5 分科会	-----	67
6 粉体工業技術センター	-----	73
7 技術情報交流懇話会	-----	75
8 共催・協賛及び後援行事	-----	75
9 刊行物	-----	76

第3章 平成 30 年度事業計画

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

概要

わが国の景気は、欧米の政治・経済などに先行き不透明な状況が残るものの、好調な企業収益を背景に雇用環境や設備投資は底堅く、輸出が増加するなど、景気の回復基調は継続すると見込まれております。

懸案であった、2020 年の東京オリンピック・イヤーの国際粉体工業展東京を新設の東京ビッグサイト南館を使用して開催できる事で決着し、目途が立ちました。

このような状況下、協会の 3 本柱の一つである、「分科会活動」においては、平成 28 年度に粉体シミュレーション技術分科会を立ち上げ、今年度は目的指向技術系分科会として、粒子積層技術分科会を立ち上げることができ、20 分科会の体制に拡充しました。「委員会・部門活動」さらに「展示会事業」については、平成 29 年度から継続して以下の活動目標を策定しました。

1. 分科会活動の方向性の明確化(最終年度は単位操作関連技術分科会の活性化を目指す)
2. 委員会活動の活性化と費用の有効活用
3. 展示会事業の積極的な取り組み
4. 分科会運営委員会の活動と今新設の粒子積層技術分科会の活動強化

本年度は、平成 28 年度からスタートした「平成 28～30 年度中期運営計画」の最終年度として、これらの目標を基本にした活動を行い、当協会の目的である「粉体に関する鉱工業技術の開発及び普及を通じて粉体関連工業の発展を図り、わが国経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与する」ことを目指します。

会員各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

1. 活動計画

1-1 調査・研究事業(分科会、分科会運営、技術(技術用語検討・ナノ粒子利用))

分科会の共通目標として、分科会運営委員会を中心に新技術へのアプローチと分科会間の情報交換や交流を通じて、技術分野毎の情報収集と成果の発信を探索していきます。

今年度は新しい分科会として粒子積層技術分科会を発足させます。この分科会は、ナノ粒子に代表される粉体の工業応用・製品化において、湿式積層技術あるいは乾式積層技術に共通的な基盤技術が直面している課題を取り上げ、粉体積層プロセス及びシステムの開発と改善等をテーマとして取り上げる予定です。さらに、分科会活動の基盤となる、単位操作関連技術分科会に目を向け、粉体シミュレーション技術利用分科会、粒子積層技術分科会との合同分科会活動などを通して、より活性化を目指します。

ナノ粒子利用技術委員会では、ナノ粒子材料の合成、分散、製品化の現状と課題となっている問題点を明らかにし、収集された情報を、委員会および粉体工業展のナノ粒子利用技術に関するセミナーを開催し、公開していく予定です。

1-2 広報・普及事業(総務、「粉体技術」誌編集、総覧発行、産学官連携)

(1) 粉体技術総覧 2018/2019 の発刊

国際粉体工業展東京2018に合わせて発刊する粉体技術総覧 2018/2019 を、粉粒体プロセスの機器ガイドブックとして、展示会以降も活用できる資料として編集する。全体の構成も見直し、「粉体技術の研究者」の項目を加える。新たに、粉体技術総覧のWEBサイトを開設し、機器ガイドブックの詳細、粉体技術の研究者をWEBから検索し閲覧できるようにします。

(2) 月刊誌「粉体技術」

創刊から 10 年目の節目を迎える。「粉体関連産業の総合情報誌」として情報誌にふさわしい誌面作りを進めていく。新しく開設された協会のオンラインサイトから、新刊およびバックナンバーをWEBサイトから購入できるようにし、新規読者の獲得や収支の改善にも取り組んでいきます。

(3) 産学官連携

国際粉体工業展東京2018併設イベントとして、大学や公的研究機関と連携し、粉体工学入門セミナー、粉体機

器ガイダンス、最新情報フォーラムを実施する予定です。

産学技術交流推進門は、常時ホームページ上で協会内外からの粉体技術に関する相談を受け、企業からの問合せを大学や研究機関へ橋渡しする役目を果たしていきます。

1-3 人材育成・教育事業(教育部門)

平成 30 年度は、平成 29 年度と同様、粉体入門セミナー、粉体エンジニア早期養成講座などを中心に以下の講座、セミナーの開催を予定しています。

粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)	3回
粉体エンジニア早期養成講座(8講座)	9回
粉体技術専門講座	2回
粉じん爆発・火災安全研修【初級】【中級】	2回

1-4 規格・標準化事業(標準粉体、規格、粉じん爆発)

・標準粉体委員会

平成 30 年度は、平成 27 年度から継続してきた、JIS Z 8901「試験粉体 1」の改訂、協会規格 SAP 14-12「SAP 試験用粉体 3」の JIS 規格化を進める。本年度は規格原案の提案に必要な、ラウンドロビンテストを実施します。

・規格委員会

平成 30 年度は、新規に 2 つの JIS 原案作成委員会を発足し、2 つの JIS 原案作成委員会を昨年度から継続します。

新規 JIS Z8819-2 粒子径測定結果の表現の改正原案作成 (ISO 19430:2016 改正に対応)

新規 ISO 19430:2016 粒子軌跡解析法の JIS 原案作成

継続 微小粒子の破壊及び変形強度の測定方法 についての JIS 原案作成

継続 JIS Z 8801-1:2006 試験用金属製網ふるい(ISO 13310-1:2016 改正に対応)

今年度は新規に発行した ISO 及び JIS 規格の紹介・普及のためのセミナーを開催する予定です。

・粒子特性評価委員会

平成 30 年度は、第 54 回、第 55 回の ISO/TC 24/SC 4 国際会議へ日本代表団として出席し、国際規格作成に参画します。特に、本委員会が重点的に規格作成を進めている、レーザ回折法、沈降法、粒子標準物質、気相計測法等を中心に、新作業項目 (NP) の提案を行う予定です。

・集じん技術委員会

JIS Z8910 を基に提案した国際規格化 (ISO/TC142) の策定 (小委員会 WG-B)、および国際規格 ISO16313 に対する Part2 の規格原案の提案 (小委員会 WG-C) を継続して実施します。

1-5 海外交流事業(海外交流)

平成 30 年度は、ニュルンベルグメッセとの相互協力契約 (平成 29 年度締結) に基づき、IPB2018 中国への協会ブースおよび会員ブースの出展、国際粉体工業展東京2018でのニュルンベルグメッセへの無償ブース提供を行います。一方、従来から実施してきた海外の団体に対する当協会主催の粉体工業展への無償出展案内は、見直しを進めます。

1-6 展示会事業(粉体工業展、東京粉工展、大阪粉工展)

国際粉体工業展東京2018を、2018年11月28日(水)～30日(金)東京ビッグサイトで開催します。出店規模は320社・団体、小間数は、1040小間の開催規模を目標に募集を開始しました。展示会では、製品技術説明会、先端材料にスポットを当てた特別展示ゾーン、粉の広場を開催します。併催イベントとして、最新情報フォーラム、粉体工学入門セミナー、粉体機器ガイダンス、海外情報セミナー、粉じん爆発情報セミナー、ナノ粒子技術利用セミナー、学生ツアー・交流会を実施します。また、今回より開始時間を30分早めて9時30分とし、終了時間を17時までに変更します。

懸案であった、国際粉体工業展東京2020は、2020年11月18日(水)～20日(金)東京ビッグサイト南館で開催できることになりました。

1-7 標準粉体製造頒布事業(製造事業部門)

バリウムチタネートガラス粒子 MBP1-10 および MBP10-100 の海外向け販売開始に伴い、英文ホームページ

を拡充します。また、新しく開設された協会のオンラインサイトと連携し、海外向け販売のカード決済を行えるようにします。

1-8 会員共益事業(技術情報交流懇話会、推薦審査、人材育成)

以下の活動を通じて、会員相互の親睦と技術情報交流、人脈形成などの促進を図ります。

- ・技術情報交流懇話会：火曜会(東京4回)、水曜会(名古屋3回)、木曜会(大阪に回)、金曜会(福岡3回)を開催します。
- ・推薦審査委員会：分科会功労賞、委員会・部門功労賞、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の審査・推薦および個人会員・会友の入会審査を行います。
- ・人材育成委員会：「若手のつどい」を4回開催、国際粉体工業展東京2018に併せ、学生ツアー・交流会の企画・運営を行います。

2. 会議・会合

2.1 第37回定時総会

- 開催日時： 平成30年5月23日(水) 13:00
場 所： 東京/東京ガーデンパレス
次 第： *総会
*表彰式
協会賞授与、粉体工業展賞授与、粉体工業功績者表彰
*特別講演
*懇親会

2.2 理事会

	開催日時	開催場所
第1回	平成30年5月10日(木) 15:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪
第2回	平成30年5月23日(水) 14:40	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成30年8月3日(金) 15:00	東京/東京ガーデンパレス
第4回	平成30年11月13日(火) 12:30	京都/ホテルグランヴィア京都
第5回	平成31年3月13日(水) 14:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.3 諮問会議

	開催日時	開催場所
第1回	平成30年4月10日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第2回	平成30年7月10日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成30年10月17日(水) 14:00	名古屋/名鉄ニューグランドホテル
第4回	平成31年2月28日(木) 14:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.4 定例会合

	開催日時	開催場所
秋期定例会合	平成30年11月13日(火) 15:00	京都/ホテルグランヴィア京都

2.5 分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議

分科会連絡会議	平成31年1月25日(金)13:00	名古屋/名鉄ニューグランドホテル
委員会・部門連絡会議	平成31年1月26日(土)9:30	名古屋/名鉄ニューグランドホテル

3. 粉体工業展

3.1 国際粉体工業展東京2018 の開催

11月28日(水)から11月30日(金)までの3日間、国際粉体工業展東京2018が開催される。粉体工業展は当協会および粉体技術・粉体機器に係る事業者にとって最大のイベントである。あらゆる“粉”に関する最新情報を提供する場であり、産・官・学の技術交流および粉体技術に関連する産業の発展に寄与することを目的として

開催する。

東京ビッグサイトに会場を移して5回目(通算22回目)の開催となるが、今回は出展社・来場者双方の要望を勘案し、開始時間を30分早めて9時30分とし、終了時間を全日17時までに変更する。また、当日会場で無料配布する粉体技術総覧を多くの方が活用できるガイドブックとして内容を刷新し、さらに魅力的な展示会づくりを目指して準備を進めている。

1. 開催概要

会期：2018年11月28日(水)～11月30日(金) 9:30～17:00

会場：東京ビッグサイト 東1・2・3ホールおよび会議棟

テーマ：この一粒・・・夢をかたちにー粉の技術ー

2. 出展対象技術・製品

製造・プロセス機器ゾーン

粉碎装置／ふるい分け装置／分級装置／ろ過装置／混合装置／混練装置／造粒装置／コーティング装置／乾燥装置／供給装置／輸送装置／分散装置／集じん装置／成形装置／表面改質装置／包装装置／焼成装置／他

計装・測定、ラボ機器ゾーン

計測機器／計装機器／ラボ機器／制御システム／FA装置／他

材料、エンジニアリング・情報ゾーン

新素材／フィルター材／スクリーン／機能性粉体／エンジニアリング／受託加工サービス／出版／コンピュータシステム／ソフトウェア／環境・エネルギー・資源・リサイクル／助材／他

【特別展示ゾーン】

先端材料ゾーン

・ナノマテリアル

セルロースナノファイバー、カーボンナノチューブ、グラフェン、各種金属・無機・有機ナノ粒子やナノロッドなど、計測・測定・評価、ナノ粒子の安全性、超微細加工技術など

・電池材料

正極材(コバルト、マンガン、ニッケル 他)、負極材(グラファイト、ハードカーボン、スズ、ケイ素材料 他)、電解液・電解質、セパレータ(ポリオレフィン 他)、銅箔、バインダー、添加剤など

・医薬品材料

賦形剤、崩壊剤、結合剤、滑沢剤、コーティング剤など

・食品用材料

健康食品、機能性食品、介護用食品、各種添加剤など

・複合材料

粒子分散系複合材料、多層被覆粒子、有機・無機ハイブリッド材料など

・材料製造法

粒子被覆や粒子積層、粒子合成法など新規材料の製造法

粉体シミュレーションゾーン

・ソフトウェア

商用ソフトウェア、動画編集、DEM、CAD、CFD、ワークステーションなど

・シミュレーション用物性取得

AFM、ピクノメーター、付着力測定装置、ゼータ電位測定装置など

・検証実験用機器

PIV、ハイスピードカメラ、レーザ顕微鏡、SEM など

3. 行事

3-1 併催行事

・特別講演

初日の11月28日(水)に「企業力の源泉と経団連が予想する未来”Society5.0”」と題し、三菱電機株式会社取締役相談役、山西 健一郎氏による特別講演を開催する。

- ・粉体工学入門セミナー 全日開催、また終了後名刺交換会を予定
- ・粉体機器ガイダンス
各分科会(今回は輸送と分級・ふるい分けを予定)を主体とした、機器選定に役立つ初心者向けセミナーを実施する。
- ・最新情報フォーラム
テーマとして「先端材料」「包装」「電池」および「粉体シミュレーション」を採り上げ、それぞれ著名な講師による講演会を開催する。また展示会場内に特別展示ゾーンとして「先端材料ゾーン」「粉体シミュレーションゾーン」「包装ゾーン」を設置して関連展示を行う。
- ・海外情報セミナー
東南アジア等での進出に必要な社会情勢、仕組みに関する情報を取り上げ解説する。
- ・粉じん爆発情報セミナー
粉じん爆発でのリスク評価の現状をグローバル視点で解説する。
- ・ナノ粒子利用技術セミナー
ナノ粒子の利用に関するプロセスの最新技術情報を解説する。
- ・製品技術説明会
展示会場内4会場にて開催する。
- ・粉の広場
アカデミックコーナー、分科会展示コーナー、標準粉体展示コーナー、技術相談コーナーを設置する。また、産官連携コーナーを設けるなどの多彩なイベントを企画する。

3-2 関連行事

- ・学生ツアー・交流会
11月28日(水)展示会初日に学生および企業のフレッシュマンを対象に講演「粉体技術者になろう」、展示会ツアー、交流会を開催する。
- ・粉体技術総覧 2018/2019 発行
粉体技術を一望のうちに収めた、「粉体技術総覧」を展示会の来場者に無料で配布する。
内容を刷新し、分かりやすい紙面構成として充実、粉体を研究されている先生方のリストも掲載する。

3-3 同時開催

- ・粉体工学会秋期研究発表会

4. 常置委員会

4.1 総務委員会 (赤堀肇紀委員長、六車嘉貢、嘉村徹也各副委員長)

委員会開催予定:3回

活動:

- 1) APPIEメールマガジンは、問題点を把握し改善提案を行う。(作成・発信は協会総務が担当)
- 2) 協会ホームページは、問題点を把握し改善提案を行う。(更新・メンテナンス・改善作業は協会総務が担当)
- 3) 「事業案内」は、内容を確認し発行する。(作成・印刷は協会総務が担当)
- 4) 会員名簿(日本語版)は、内容を確認し発行する。(作成・印刷・発送は協会総務が担当)
- 5) 「国際粉体工業展東京2018」出展の非会員会社に対し入会勧誘を行う。
- 6) 協会活性化のために実施した法人会員向けアンケートの集計・分析結果に基づき、活性化に向けた取り組みを討議、実施する。
- 7) 過去3年間の入退会リストを作成し、入会理由・退会理由を把握し、6)の取り組みと合わせて増強と退会防止の取り組みについて討議、実施する。
- 8) 会長特命事項

4.2 技術委員会 (牧野尚夫委員長)

委員会は必要に応じて開催する。

活動:

- 1) 引続き「技術用語検討委員会」、「ナノ粒子利用技術委員会」および「ナノ粒子安全性技術委員会(開催

時)」の活動に参画する。

2) 委員会、分科会に共通する技術的問題などが生じた場合対応していく。

4.2.1 技術用語検討委員会（牧野尚夫委員長）

委員会は必要に応じて開催する。

活動:

- 1) 執筆督促および脱稿予定: ~ H30,3 月末
委員による内容確認: H230,5 月末
発行予定期日: H30,10 月上旬
- 2) 販売計画: ①法人会員に無料配布(1部):300部
②法人会員へ販売(新入社員や営業マンへ、プレゼント用など):200部
③その他(各種セミナー、展示会などで販売)
④H30?年度以降の粉体入門セミナーで無料配布。

4.2.2 ナノ粒子安全性検討委員会（明星敏彦委員長、遠藤茂寿、近藤郁各副委員長）

役割はほぼ達成したと考えており、技術情報のウォッチングは行うが、小休止とし、委員会は必要に応じて開催する。なお、明星委員長はナノ粒子利用技術委員会に特別委員として参加する。

4.2.3 ナノ粒子利用技術委員会（奥山喜久夫委員長、伊ヶ崎文和、福井武久各副委員長）

委員会開催予定:3回、小委員会開催予定:3回

活動:

- 1)委員会の委員、ナノ粒子を専門としている大学の先生および企業の研究者による講演を行い、ナノ粒子材料の合成、分散、製品化の現状と問題点を議論し、ナノ粒子の利用において課題となっている問題点を明らかにする。
- 2)委員会での講演をもとに、ナノ粒子の合成から製品化において重要となるナノ粒子のハンドリング操作の現状と問題点の整理を行う。同時に、ナノ粒子の代表的な製品に焦点を絞り、合成、分散、製品化へのプロセスを整理し、課題を明らかにする。
- 3)注目すべきナノ粒子プロセス・装置などの情報の収集を、ナノ粒子関連の国内および国際展示会(ACHEMA2018)などで行う。同時に、「ナノ粒子の健康影響」に関する情報についても収集を行う。収集された情報は、委員会および粉体工業展のナノ粒子利用技に関するセミナーで公開する。
- 4)微粒子ナノテクノロジー分科会との連携を検討する。

4.3 「粉体技術」編集委員会（谷正美委員長、鈴木道隆、加納純也各副委員長）

委員会開催予定:本委員会 4回、小委員会 12回

活動:

予定特集号

月号	特集予定	月号	特集予定
4月号	協会を支える分科会活動	10月号	アヘマ特集
5月号	粉体シミュレーション技術利用	11月号	IoTとAI
6月号	プラスチックのリサイクル	12月号	花粉の状況と対策
7月号	災害後の生活と復旧	1月号	働き方改革・人材活用
8月号	大気中環境汚染粒子	2月号	発展を続ける粉砕技術
9月号	東京五輪・パラリンピックと技術革新	3月号	国際粉体工業展東京2018を終えて

4.4 推薦審査委員会（加藤文雄委員長、赤堀肇副委員長）

委員会開催予定:3回

活動:平成 29 年度に準じ、年 3 回の会合で、各賞の表彰規定に則って、審査業務を実施していく。

4.5 粉体工業展委員会（山田幸良委員長、村田博、菅原一博各副委員長）

委員会開催予定:必要に応じて開催する。

活動:「粉工展大阪 2017」の反省等をふまえ、「国際粉工展東京 2018」を支援・助言していく。

4.5.1 東京粉体工業展委員会（村田博委員長、大川原正明、槇野利光各副委員長）

委員会開催:本委員会4回、正副委員長会議:本会議に合わせ開催)、広報出展来場促進小委員会2回、
粉体技術総覧小委員会3回

活動:

国際粉体工業展東京2018の企画内容について東京粉体工業展委員会および小委員会を開催し、詳細な計画を詰めるとともに、広報活動及び出展・来場促進活動に注力し、開催規模目標を達成する。

4.5.2 大阪粉体工業展委員会（菅原一博委員長、加藤文雄、高倉正紀、花川忠己各副委員長）

委員会開催予定:本委員会3～4回、小委員会(必要に応じて出展促進委員会等を開催する)

活動:

第12回の反省を踏まえ、次回「粉体工業展大阪2019」の開催(インテックス大阪、2019年10月16日(水)～18日(金))に向けての準備。

主たる課題

- 1) 出展促進
- 2) 来場者増加(同時開催展示会と連携し、相互入場やPRの強化など検討)
- 3) 併催行事数とスケジュールの検討
- 4) 効果的な広報についての検討
- 5) 運営面での改善
- 6) その他、反省会での指摘事項の検討、改善

4.6 分科会運営委員会（増田弘昭委員長、伊ヶ崎文和、浅井信義、鈴木康夫各副委員長）

委員会開催予定:本委員会4回、分科会相談会1回

活動:

- 1) 「粉体技術の着実な発展と普及を目指す分科会活動」をめざし、年4回の運営委員会を開催し、分科会の体制見直しや分科会活動の活性化に向けての助言を行う。新分科会設立に関して検討し、その結果によっては設立準備に入る。
- 2) 拡大分科会運営委員会を8月に開催し、他の分科会代表幹事との情報交換、交流などを行い、分科会活動の問題点の共有化を図るとともに、お互いの経験を学ぶ場とする。
- 3) 代表幹事などが交代した分科会など、分科会側から分科会運営に関する疑問点、問題点、提案してもらい、それに対して分科会運営委員会側も分科会運営についての考えを述べるなど意見交換を行い、よりよい分科会にするための相談会を聞く。

4.7 海外交流委員会（浅井信義委員長、横山豊和、田辺大二各副委員長）

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会3回

活動:

- 1) APPIE annual REPORT や英文ホームページ等で、協会情報を海外へ発信(5月)
- 2) iPBS シカゴ(4.24～4.26) 交換ブース設置。委員会より委員派遣。
- 3) IPB 中国・上海(10.16～10.18)協会ブース出展及び共同出展 Japanese Pavilion 実施
- 4) 第8回海外情報セミナーの開催。粉体工業展東京2018(11.29 13:30-15:30)で開催
- 5) 過去に行った海外支援活動の見直し。

4.8 人材育成委員会（三宅康雄委員長、槇野利光、荻田容宏各副委員長）

委員会開催予定:本委員会4回

活動:

- 1) 「若手のつどい」を年4回行う(委員会と同日)
- 2) 国際粉体工業展東京2018、学生ツアー・交流会の企画運営を行う。
- 3) リクルートアンケートの結果を粉体工学会側に送り今後の方向を検討する。

4.9 標準粉体委員会（森康維委員長、後藤邦彰副委員長）

委員会開催予定:本委員会2回、小委員会2回

活動:

- 1) JIS Z 8901「試験粉体1」改訂に向けての提案
- 2) SAP 14-12「SAP試験用粉体3」のJIS規格化の提案
- 3) SAP 13-11「サブミクロン領域の粒子径分布測定装置試験用粒子」のJIS規格化およびCRM登録のための準備

4.10 規格委員会 (遠藤茂寿委員長、松山達副委員長)

委員会開催予定:2回

活動:

- 1) 協会が関与する規格類(SAP, JIS, ISO)の現状把握
- 2) JIS 規格原案作成支援及び定期見直しの対応
 - ・1-1 に記した2件(微粒子強度試験, JIS Z 8801-1 改正)のJIS原案作成
 - ・JIS Z 8819-2:2001(平均粒子径)の改正(委員長:遠藤)
 - ・ISO 19430:2016(粒子追跡法)のJIS化(委員長:綾氏)
 - ・30年度に予定される8件にJIS見直しに対応
- 3) 規格関連委員会の動向把握
- 4) 規格・標準化事業の広報及び標準化セミナーの開催(9月予定)
 - ・新規発行ISO及びJISの紹介・普及を粉体技術誌やセミナーを通じて行う。

4.10.1 粒子特性評価委員会 (桜井博委員長、伊串達夫副委員長)

活動:

- 1) ISO/TC 24/SC 4 国際会議へ日本代表団として出席し、国際規格作成に参画する。
 - ・第54回国際会議(イギリス・ロンドン、平成30年4月5~6日)
 - ・第55回国際会議(中国・上海、平成30年10月15~16日)
- 2) 定期見直しおよび各審議段階での投票に対し、各WG対応委員会を中心に審議し、投票する。
- 3) レーザ回折法、沈降法、粒子標準物質、気相計測法など、当委員会が重点的に規格作成を進めている案件について、文書作成や新規提案を行う。
- 4) 規格委員会が主催する新規発行ISOの紹介・普及活動を支援する。

4.10.2 ふるい委員会 (松山達委員長)

活動:

- 1) JIS Z 8801-1(試験用篩)の改定についての情報共有
- 2) SC8 会議(2018年10月, 上海)に出席。その上で対応・フィードバックを検討

4.10.3 集じん技術委員会 (金岡千嘉男委員長、福井国博副委員長)

活動

WG-A:休止中

WG-B(委員長福井):2017.9パリ会議で活性化された Sampling and test method for cleanable filter media taken from filters of systems in operation “ろ布性能測定を目的とする稼働中集じんシステムからのろ布のサンプリング及び試験法”について、前年度に引き続き、ろ布劣化評価のため実稼働集じん施設でのサンプリングを実施し劣化測定と評価法の検討を行う。

規格原案を策定し2018年9月に開かれるTC142北京会議において論議する(PL:福井広大、金岡)。なお、本国際規格は、基本的には、JIS Z8910を翻訳し国際規格とするものである。

WG-C(委員長森下):ラウンドロビンテストを継続するとともに、その結果を組み込んだISO16313Part2規格原案を策定する。

4.10.4-1 H29年度 JIS 原案作成委員会(3) (齋藤文良委員長)

-微小粒子強度測定のJIS原案作成-

委員会開催予定:委員会1回

H30年5月頃に最終の本委員会を開き、意見を統一し、規格協会へ原案を提出する。同年7月末を以て本委員会は終了となるが、その後、提出原案は規格協会と委員長・幹事間で修正作業を経て、約1年

後に JIS として制定となる見込みである。

4.10.4-2 H29 年度 JIS 原案作成委員会(4) (松山達委員長)

-JIS Z8801-1 試験用ふるい - 第1部:金属製網ふるい-

委員会開催予定:委員会 1 回

5 月頃に最終の本委員会を開き、意見の統一をし、規格協会へ原案を提出する。

その後、規格協会との修正作業を経て、約 1 年後に JIS として制定となる見込みである。

4.10.4-3 H30 年度 JIS 原案作成委員会(1) (遠藤茂寿委員長)

-JIS Z8819-2 粒子径測定結果の表現-第2部:粒子径分布からの平均粒子径又は平均粒子直径及びモーメントの計算-

委員会開催予定:委員会 3 回、小委員会 3 回

2014年に改正された ISO 9276-2 Representation of results of particle size analysis -- Part 2: Calculation of average particle sizes/diameters and moments from particle size distributions に対応する JIS Z 8819-2 の改正原案を作成する。

主な改正点は次のとおり:

- ・モーメントの基本的定義(箇条 4)と平均粒子径(箇条 5)の内容を合体し、箇条 4 とする。
- ・箇条 5 として、モーメント比による平均粒子径表記(M-R)法を追加する。
- ・箇条 6 として、M 法と M-R 法との関係についての記載を追加する。
- ・箇条 7 として、粒子径分布に関するパラメータ算出の精度の規定を追加する。
- ・Annex (Informative)として、M 法及び M-R 法による体積基準での平均粒子径及び標準編の計算例(Annex A 及び Annex B), 並びに精度の例(Annex C)を追加する。

4.10.4-4 H30 年度 JIS 原案作成委員会(2) (綾信博委員長)

-ISO 19430:2016 Particle size analysis -- Particle tracking analysis (PTA) method(粒子軌跡解析法)の JIS 化-

委員会開催予定:委員会 3 回、小委員会 4 回

2016 年に ISO/TC24/SC4 で規格が新規に発行された ISO 19430:2016 Particle size analysis -- Particle tracking analysis (PTA) method(粒子軌跡解析法)に対応する JIS を発行する。

4.11 粉じん爆発委員会 (土橋律委員長、山隈瑞樹、太田潔各副委員長)

委員会開催予定:3回

活動:

1) 安全教育

粉じん爆発・火災安全研修(初級および中級)について、企画、運営をおこなう。

テキスト(2冊刊行している)について、新講師により改訂をおこなう。H31 終了予定。執筆者の絞込み。本年度は 3 回程度の会合を設ける予定。

- ・粉じん爆発・火災安全研修【初級/基礎編】(毎年秋、関東関西交互に開催)の開催
平成 30 年秋に、関西にて初級研修を開催予定。

平成 29 年度とほぼ同様の内容・体制で実施予定。(9 月~10 月)。開催会場の変更も検討する。

- ・粉じん爆発・火災安全研修【中級/技術編】(2年ごとの春に関東で開催)の開催
平成 30 年度は H31 年 2 月頃開催予定。

2) 規格の作成

規格作成の計画はなし

3) 行事等への対応

国際粉体工業展東京2018における「粉じん爆発情報セミナー」の企画・開催予定

学術情報、技術情報、規制・規格情報、国際動向、災害情報などからトピックスを選定して企画する。

H30.11.28 10:00~12:45 の予定。

4) 最新の規制、規格等動向把握

- ・安全試験国際規格調査検討ワーキング・グループの継続

平成 27 年度にキックオフしたワーキング・グループで、粉じん爆発・火災に関わる海外の安全試験

規格を調査し、整理する作業を継続する。

・IEC/TC31 国内委員会への対応

本委員会より山隈副委員長が参加継続、動向をフォローしてゆく。

5) 粉じん爆発・火災安全研修テキスト(初級及び中級)の改訂

H31,3月発刊を目標に作業を実施。

6) 分科会等との連携

平成 29 年度は実施できなかったが、各工程を専門的に検討している分科会等との連携は有意義であり、今後とも機会があれば実施してゆく。

5. 分科会

5.1 粉体ハンドリング分科会

(松坂修二コーディネータ、河府賢治副コーディネータ、村上徹代表幹事、海老原裕之副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	H30.5～6月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会
2	H30.8～9月	関西地区	技術講演、製品紹介、懇親会
3	H30.11～12月	関東地区	工場見学、技術講演、懇親会
4	H31.2～3月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会

幹事会、小委員会開催予定 幹事会 計:4回/小委員会 計:2回

中期(平成 30 年度から 3 年程度)の活動テーマ

- 1) 粉体ハンドリングをマテリアルハンドリングの範疇と捉え取り組みの範囲を拡大する。
(前中期からの継続テーマ)
- 2) 最近の粉体ハンドリング産業の技術力の変遷を把握し、将来展望を見据えた基盤技術や解決困難な技術的課題を抽出し、研究や勉強の場を企画する。(前中期からの継続テーマ)
- 3) 専門講座・粉体エンジニア早期養成講座など教育計画を企画・実践する。
- 4) 海外での分科会開催などグローバル催事を恒常化する。

単年度(平成 30 年度)の事業計画の概要と運営方針

- 1) ニーズにマッチした年 4 回の分科会を開催する。
- 2) 「粉粒体ハンドリング技術」誌の販売促進を行なう。
- 3) 専門講座を 2 回実施、粉体エンジニア早期養成講座の準備を行なう。

5.2 粉砕分科会

(内藤牧男コーディネータ、加納純也副コーディネータ、神谷昌岳代表幹事、石井利博副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.7.12-13	倉敷	粉体プロセスとシミュレーション
2	H31. 2	東京またはつくば	粉砕技術の新展開

幹事会、小委員会開催予定 幹事会 計:2回/小委員会 計:1回

中期(平成 30 年度から 3 年程度)の活動テーマ

- 1) 粉砕の重要技術、最新技術、ユーザの潜在的ニーズを分析して、これらを本会合のテーマとして取り上げ、メーカーとユーザの交流を促進する充実した本会合を目指す。
- 2) 粉砕に関する産学の交流を通じて、粉砕技術に関する最新の情報を入手して、参加者に提供する。
- 3) 粉体エンジニア早期養成講座などを通じて、粉砕技術の教育、普及啓発に努める。
- 4) 粉砕技術に関する国際的な情報収集、海外のユーザとの交流を図るための企画を検討する。

単年度(平成 30 年度)の事業計画の概要と運営方針

- 1) 本会合は年 2 回開催する。第 1 回は、集じん分科会、粉体シミュレーション技術利用分科会との三合同分科会として 7 月 12,13 日に倉敷にて開催する。第 2 回は、関東方面で開催し、ユーザとの交流促進を目指す。食品、化粧品関係、または材料分野を検討中。
- 2) 粉体エンジニア早期養成講座のテキストを本年度全面改訂したが、平成 30 年度には、「粉砕シミュレーション実習」を新たに加えることによって、より魅力のある養成講座を目指す。

5.3 分級ふるい分け分科会

(吉田英人コーディネータ、所千晴副コーディネータ、秋山聡代表幹事、佐藤一彦副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6	愛知	抹茶製造工場の見学
2	H30.10	茨城	ガラス製造工場の見学
3	H30.12.14	大阪	粉体物性測定機器メーカーの見学

幹事会開催予定 幹事会 計:3回

中期(平成30年度から3年程度)の活動テーマ

- 1) 粉体材料の高機能化に向けた分離径制御技術
- 2) 分級ふるい分け装置のトラブルとその防止策
- 3) 分級ふるい分けに関する標準化

単年度(平成30年度)の事業計画の概要と運営方針

- 1) 粉粒体取り扱い工場の見学と講演会の開催(3回)
- 2) 分級ふるい分け装置の付着と摩耗対策に関する技術調査
- 3) ふるい網に関するISO標準化の情報収集

5.4 乾燥分科会

(田門肇コーディネータ、立元雄治副コーディネータ、諏訪聡代表幹事、飯田晃弘副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	H30.6.29	千葉	環境関係の工場見学、講演会
2	H30.11月	東京	乾燥技術、装置関連の講演会

幹事会予定:2回

中期活動テーマ

食品、医薬、化学、環境、バイオマス、廃棄物など、できるだけ興味を持てるテーマでの工場見学会、講演会を実施する。また海外の乾燥シンポジウムなどからの最新の乾燥技術・研究動向の報告講演会を開催し、国内への情報発信を継続実施していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 第1回分科会:環境関連の工場見学、講演会を計画
(千葉市新港クリーン・エネルギーセンターの見学、講演会)
- 2) 第2回分科会:IDS2018他、乾燥技術、装置関連の講演会を予定。

5.5 集じん分科会

(牧野尚夫コーディネータ、福井国博副コーディネータ、近藤茂雄代表幹事、杉野隆副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6.29	山形	(仮題)高温排ガス設備への集じん技術の活用:(株)キヨスミ産研
2	H30.7月	岡山	(仮題)石炭・廃棄物の熱利用技術における粉碎・集じんプロセス開発とシミュレーション技術の活用:JFE環境サービス
3	H30.10月	福井	(仮題)火力発電所における集じん装置の多機能化検討:敦賀火力発電所
4	H31.2月	関西 or 中部地区	(仮題)ユーザ視点の集じん機への期待

幹事会開催予定:幹事会:3回

中期活動テーマ

- 1) 各幹事の役割を明確化し、本会合:4回/年開催や粉体エンジニア早期育成講座の充実、専門講座の数年に一度程度の開催など、一層の活性化を図る。
- 2) 集じん技術利用領域の拡大や様々な装置との合理的な組み合わせ等を目指し、他分科会との合同開催や他の学・協会との共催行事等を積極的に推進する。また、ユーザからの要望を積極的に調査する。
- 3) 集じん技術委員会の国際規格化推進への支援を今後も継続推進する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 中期活動テーマに基づき、今年度は三分科会との合同開催、粉体工学会・研究会との共同開催を行うとともに、集じん機ユーザの調査を行う。
- 2) 集じん技術委員会への支援や粉体エンジニア早期養成講座の運営は、例年通り継続する。

5.6 混合・成形分科会

(鈴木道隆コーディネータ、藤正督副コーディネータ、藤井淳代表幹事、菅原一博副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.7	平塚、神奈川	混合機製作工場見学
2	H31.1～3 頃	未定	合同開催を検討中

幹事会開催予定:幹事会:3～4 回

中期活動テーマ

- 1) 混合・混練・成形がキーとなる製造プロセスの今日的な課題に焦点を合わせた見学会、講演会
- 2) 混合・混練の状態評価方法の標準化

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 混合機製作工場見学(これまではユーザ工場の見学が中心であったが、今年度は製作側の見学)
- 2) ユーザプロセスの見学として製剤工場を訪問予定

5.7 造粒分科会

(村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、桑原敏之代表幹事、岩松英敏副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.8	未定	施設見学会 (造粒プラントとその装置のシミュレーション 実例講演) (予定)
2	H31.3	未定	技術討論会 テーマ未定

幹事会開催予定:4 回

中期活動テーマ

- 1) 会員が業務上で取得したい情報の提供。ユーザーニーズとそれに答えるメーカーの技術・開発の努力を有効に繋げる。
- 2) 造粒による有用な複合材料の創生アプリケーションと様々な最新、ユニークな造粒技術、造粒装置の紹介。
- 3) 28 年度に開催した”基本的造粒原理を理解するための小型研究による実習付講座”を専門講座の範疇から、分科会の活動の範疇として、定期的(4～5年に一度)開催を計画。

今年度の事業計画の概要と運営方針

年間テーマを「粉・粒を扱うプロセスの、インライン・リアルタイム計測を用いた制御方法の実際と課題」とし、活動する。

- 1) 年間テーマに合致した施設見学会の開催。
- 2) 年間テーマに合致した技術討論会の開催。

5.8 計装測定分科会

(森康維コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、鷲尾一裕代表幹事、阿川直樹、池田英幸各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6 月	東日本	粉体関係施設の見学
2	H30.10 月	西日本	粉体関係施設の見学
3	H31.1 月	東京	第 38 回計装測定講演会

幹事会開催予定:4 回

中期活動テーマ

ナノ粒子計測を含む新しい粉体測定技術の探求と信頼性向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 分科会本会合は 3 回実施、2 回は見学会、1 回は講演会を行う。
- 2) 標準粉体委員会の活動と連携を強化、標準試料のラウンドロビンテストなどに参画する。
- 3) 粉体エンジニア早期養成講座は、H30 年度(株)堀場製作所で実施。実習内容含め企画する。

5.9 湿式プロセス分科会 (岩田政司コーディネータ、菰田悦之副コーディネータ、石川敏代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.11 月頃	未定	ろ過および固液分離装置に関する最近の動向
2	H31.3 月頃	未定	他分科会との合同開催

幹事会開催予定:2 回

中期活動テーマ

水処理分野から先端材料創成技術に至るまで、湿式処理プロセスが必要とされているあらゆる分野を活動の

対象とし、会員企業の技術革新に寄与するべく活動する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

下記の中から幾つかのテーマを抽出し、見学・講演会を開催する。

1) 各種プロセスにおける固液分離

液移動に種々の場の力を用いた固液分離/吸着・イオン交換・ゲル化などと複合させた固液分離/難濾過性スラリーの固液分離/固液分離過程のモニタリング/沈降助剤などを含む複合凝集剤

2) 微粒子の凝集・分散状態の制御とその応用

各種電池電極の構造制御/スラリー塗工プロセスによる薄膜構造形成/様々な媒体中における微粒子分散手法/非定常操作による非ニュートン流体攪拌プロセス

5.10 輸送分科会

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、井上照男代表幹事、岸本武志、松井哲也各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6月	関東	エステック工場見学・講演
2	H30.9月	東海	㈱スギヤス見学・講演
3	H30.未定	長野	見学・講演

幹事会開催予定:4回

中期活動テーマ

- 1) 会員に有効且つ、利用しやすい輸送にかかわる有益な情報収集や発信に努めたい。
- 2) 海外での分科会開催は、まだ1度も開催していない為、計画したい。
- 3) コンタミに関してもさらにシビアな要求され、分解洗浄、コンタミ無しが強くなってきており、それに向けての情報収集、発信できるように活動する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) ニーズ、課題に沿った、分科会の早期計画と3回の実施。
- 2) 来年度の専門講座に向けての動きを強める。
- 3) 粉体エンジニアリング早期養成講座は単独では、難しいので粉体ハンドリングが実施に向けて動けば、支援する。

5.11 クリーン化分科会

(大谷吉生コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、林敏昭代表幹事、松田朋信副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.7	未定	クリーン計測技術
2	H30.10	未定	施設見学と講演会
3	H31.2	未定	施設見学と講演会

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

- 1) クリーン化分科会として、今まで半導体、液晶(FPD)、医薬品等のクリーン化技術について主に取り組んできたが、今後は機械、食品などの産業分野、あるいは民生用の一般家庭、人体を対象にしたクリーン化技術にまで幅を広げて行く。
- 2) 目的、クリーン化度別に、これまでに確立されたクリーン化技術を調査、再整理し、クリーン化技術の体系化を図る。
- 3) クリーン化技術の実施例を調査し、基盤クリーン化技術別に、どのような修正、変更が実施されているか整理する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 分科会として医薬品、食品関係の工場見学会と講演会を計画して行く。また、他学会との技術交流のため共催シンポジウムを計画する。
- 2) クリーン化技術の実施例と実施にあたっての変更点の調査

5.12 環境エネルギー・流動化分科会

(幡野博之コーディネータ、成瀬一郎副コーディネータ、高田真木代表幹事、高島久継副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6月	山梨県甲府市	最先端流動層技術(流動層ガス化発電設備見学会)

- | | | | |
|---|---------|-----------|----------------------|
| 2 | H30.9月 | 東京都(中央大学) | 未利用エネルギー学習(バイオマス講演会) |
| 3 | H30.11月 | 九州地区 | 木質バイオマス関連見学会 |

幹事会開催予定:幹事会 1回

中期活動テーマ

- 1) 流動層という本分科会の基幹技術の更なる応用・展開事例をリサーチし、発信していく。
- 2) 再生可能エネルギー(木質バイオマス、廃棄物系バイオマス)利用の最先端技術を紹介していく。
- 3) 新しい環境づくり、新しい社会の創生への筋道を「環境エネルギー」というキーワードと共に、本分科会活動を通して学習し、発信していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 再生可能エネルギー(木質バイオマス、廃棄物系バイオマス)利用の最先端技術の学習
- 2) 粉体技術としての流動層適用事例の見学
- 3) 木質バイオマス関連の講演会

5.13 晶析分科会

(白川善幸コーディネータ、松本真和副コーディネータ、津崎裕也代表幹事、大森一成副代表幹事)

回	予定時期	予定地域	主テーマ
1	H30.6月	フランクフルト	国際フォーラム/工場見学&講演
2	H31. 2-3月	関東	味の素(株)川崎工場

幹事会・小委員会開催予定:幹事会 5回、小委員会 3回

中期活動テーマ

- 1)最先端の技術情報の収集を国際的に行う
- 2)晶析技術の伝承
- 3)他の分科会、研究グループとの技術交流

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1)ACHEMA での国際フォーラムの企画(他分科会との連携)
- 2)専門講座の企画
- 3)工場見学&講演会

5.14 微粒子ナノテクノロジー分科会

(神谷秀博コーディネータ、宮原稔副コーディネータ、福井武久代表幹事、鳥居経芳各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6.11-16	ドイツ	ナノ粒子の有効利用と評価
2	H30.10月	東京	ナノ粒子の有効利用と応用例
3	H31.2月	大阪	ナノ粒子の有効利用と評価

幹事会開催予定:4回

中期活動テーマ

- 1) 産業レベルでの微粒子・ナノ粒子の有効な利用技術、プロセス技術、量産技術及び応用例についての最新情報の収集とその発信
- 2) 微粒子・ナノ粒子の安全性への対応についての情報収集とその発信
- 3) 海外での微粒子・ナノ粒子関連技術の情報収集とその発信

今年度の事業計画の概要と運営方針

運営方針:微粒子・ナノ粒子の有効利用についての情報収集とその発信による協会会員の活動への貢献

事業計画概要:工場見学、講演会などによる微粒子・ナノ粒子の利用、評価技術についての情報収集に加えて、今年度は3年に一度のACHEMA2018を活用した欧州における情報収集を実施する。

5.15 電池製造技術分科会

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、秋元祐代表幹事、佐藤高公、堀越勝各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.5.17	東京/東京大学生産技術研究所	車載用固体電池
2	H30.10	山梨	水素燃料電池
3	H31.2	名古屋	電力貯蔵

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

- 1) 次世代自動車やエネルギー貯蔵システムのキーコンポーネントである、電池や燃料電池、キャパシタなどが抱える諸課題を解決するための技術開発に関する講演会を企画。
- 2) 電池の安全性や耐熱性、長寿命化、低コスト化、高容量化、高出力化などのブレイクスルーを図るための、電池技術や材料技術、製造技術に関する講演会を企画。
- 3) 電池分野で、粉体技術を中心とした異業種連携の場を提供し、わが国の産業競争力の強化に資する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 世界的にEV開発、商品化競争が本格化しており、EV用電池の高性能化のための情報交換を行う。
- 2) 電池の高性能化のために固体電池の開発が進められており、その実用化のための材料技術と粉体技術、電池技術の情報交換を行う。
- 3) 多様な用途に応じて多様な電池の開発が進められており、市場の要請に迅速に対応できる連携体制を構築できるように推進する。

5.16 リサイクル技術分科会

(大矢 仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、齊藤陽代表幹事、増井芽副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.7	つくば市	環境政策から見るリサイクルの将来
2	H30.10	北九州市	CFRPリサイクルの見学と講演
3	H31.2	富山市	地域密着型リサイクルビジネス

幹事会開催予定:4回

中期活動テーマ

「持続可能社会」「自然共生社会」「安全・安心社会」「高齢化社会」を基本的に見つめ、現実として震災復興、エネルギー問題に対して具体的に「リサイクル技術」がどう貢献できるかを見いだしていく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1)「日本の廃棄物政策」の現状、ならびに「中国を含む国際資源循環の現状」を講演会より学ぶ。
- 2)今後ますます増える新複合材料のリサイクルに関してその課題と問題点を学ぶ。
- 3)地域に密着したリサイクルビジネスの成功例を学ぶ。

5.17 食品粉体技術分科会

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、野村光生代表幹事、川島哲文副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6.28	静岡	粉体ハンドリング技術
2	H30.12.14	大阪	粒子径調整および測定技術
3	H31.2~3	埼玉	粉体シミュレーション技術の活用

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

食品製造の基本となる『安全・安心』をメインテーマに、引き続き『新たな調理・生産方式』、『最先端の生産技術』、『食品の衛生管理』、『食品廃棄とリサイクル』などもテーマに活動したいと考えている。

今年度の事業計画の概要と運営方針

中期活動テーマに沿って、食品工場の見学の他講演会や他分科会との共同開催などを通じ、食品に関わる新しい情報、技術を習得できる活動を行う。また、単位操作技術についての「基礎」と「最新動向」など食品メーカーに有意義な場を提供していきたいと考えている。なお、本分科会のテーマは食品に関わる重要技術を取扱っているため、協会のみでなく食品関連他団体とも連携して幅広く参加者を勧誘していきたい。

5.18 粒子加工技術分科会

(竹内洋文コーディネータ、岩本清副コーディネータ、浅井直親代表幹事、伊藤有一、島田理史各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6.10-17	ドイツ フランクフルト他	ACHEMA 視察、IPNF2018 NOVARTIS 見学
2	H30.7.6	兵庫県三田市	沢井薬品(株)三田西工場にて見学講演会
3	H30.9.14	茨城県阿見町	(株)ツムラ茨城工場にて見学講演会
4	H31.2月	福井県若狭町	生晃栄養薬品(株)若狭工場にて見学講演会

幹事会開催予定:4回

中期活動テーマ

粒子加工技術の向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 平成30年度4月1日より 正・副コーディネータ、正・副代表幹事の交代
- 2) 粒子加工技術の関連企業での見学会及び製剤などに関する講演会・・・年4回
- 3) 粉体工学会 製剤と粒子設計部会に協力し、製剤と粒子設計シンポジウムの共催を続ける・・・年1回
- 4) 粉体エンジニア早期養成講座開講・・・年1回
- 5) 製剤と粒子設計部会で企画される行事に協力、協賛をする・・・年1-2回

5.19 粉体シミュレーション技術利用分科会

(酒井幹夫コーディネータ、石神徹副コーディネータ、角家強志代表幹事、小澤和三副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H30.6.11	フランクフルト	IPNF2018、BASF 見学ツアー
2	H30.7.12	倉敷	粉碎・集じん分科会との合同
3	H30.11.28	東京ビッグサイト	国際粉体工業展東京 2018
4	H31.未定	未定	食品粉体技術分科会との合同

幹事会開催予定:4回

中期活動テーマ

- 1) ユーザとシミュレーションベンダーの交流機会を増やすことで、より製造現場に合ったシミュレーション製品の開発と、ユーザの利用促進を図る。
- 2) アカデミックなシミュレーション技術の開発に留まることなく、より実践的なシミュレーション技術の開発に寄与する。
- 3) これらの課題に取り組む事で、ベンダー企業、ユーザ企業の入会を促し、共同で取り組むメンバーの活性化を図る。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 製造現場における粉体シミュレーションの利用技術を会員企業に紹介し、利用促進を図る。
- 2) ユーザにおけるシミュレーション関連製品の利用状況をフィードバックして、製品の改良に活かす。
- 3) シミュレーション関連製品のユーザへの紹介機会を増やし、シミュレーションベンダーの入会を促進する。

5.20 粒子積層技術分科会

(山村方人コーディネータ、瀬戸章文副コーディネータ、中尾修也代表幹事、中村圭太郎副代表幹事)

分科会開催予定:2回、幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

ナノ粒子に代表される粉体の工業応用・製品化において、粉体の積層技術の重要性が増している。なかでも、スラリーの塗布を中心とした湿式積層技術、あるいはナノ粒子の直接堆積等の乾式積層技術に大きな注目が集まっている。粉体の積層技術について、共通的な基盤技術や実用化において直面している課題を取り上げ、粉体積層プロセス及びシステムの開発と改善等を通じて、粉体産業の発展に貢献する。

6. 粉体工業技術センター (山田幸良センター長、石井興一副センター長)

6.1 教育部門 (牧野尚夫マネジャー、大川原正明、松坂修二各副マネジャー)

委員会開催予定:本委員会1回、小委員会1回

活動:

平成30年度は、平成29年度と同様、粉体入門セミナー、粉体エンジニア早期養成講座などを中心に下表のような講座を実施する。専門講座については、あくまでも可能性が有りそうなものとしてはあるが、平成29年度より多い3件が提案されている。これについては、各分科会の活動状況から考え、あと1~2件程度の企画提案を要請したいと考えている。

入門セミナー等のアンケートで不満が出された案件のうち、会場の設備に対する不満など明らかな課題には着実に対応して行く。しかし、講義が難しいなどの指摘については、講座が要求しているレベルと本人の知識

レベルが異なっていることも原因の一つと考えられるので、より適切なレベルの参加者が集められるように、講座レベルが分り易い体系図入りの案内用パンフレットをさらに工夫し、参加者が簡単に講義レベルを判断できるようにしていく。

アドホックセミナー、経営講座、特別講座については、良い案が出された時点で臨機応変に対応して行くが、他の機関でも様々な講演会が企画されている近年の状況から判断すると、今後は従来のように頻繁には企画できないと思われ、名称の一本化による整理なども視野に入れて対策を検討中である。

講座

講座名とタイトル		開催日	開催場所
粉体入門セミナー(Ⅰ)(第 53 回)		H30.6.5～6	京都市/メルパルク京都
粉体入門セミナー(Ⅱ)(第 54 回)		H30.6.18～19	京都市/メルパルク京都
粉体入門セミナー(Ⅲ)(第 55 回)		H30.7.11～12	京都市/メルパルク京都
粉体エンジニア 早期養成講座	粉体工学基礎論	H30.7.5～6	山口/戸田工業(株) 小野田事業所
	計測・測定	H30.8.21～22	東京/(株)堀場製作所 東京セールスオフィス
	乾燥	H30.9.13～14	千葉/月島機械(株) 市川工場
	粉砕	H30.10.11～12	埼玉/日清エンジニアリング(株) 粉体事業部
	粒子加工	H30.11.14～15	大阪/(株)ダルトン 大阪イノベーションプラザ
	集じん	H30.12.4～5	浜松市/アクトシティ浜松・(株)環境衛生研究所
	混合・混練	H30.12.13～14	大阪/(株)ダルトン 大阪イノベーションプラザ
	ろ過	H31.1.31～2.1	大阪市/関西金網(株) 本社
第 67 回粉体技術専門講座 【粉体ハンドリング分科会】		H30.9.18	日本大学理工学部 駿河台キャンパス1号館 121号室
第 68 回粉体技術専門講座 【粉体ハンドリング分科会】		未定	未定
第 69 回粉体技術専門講座 【晶析分科会企画】		未定	未定
粉じん爆発・火災安全研修[初級・基礎編]		H30.9.20～21	大阪/(独)大阪産業技術研究所 和泉センター
粉じん爆発・火災安全研修[中級・技術編]		H31.2月頃	東京/労働安全衛生総合研究所

※粉体エンジニア早期養成講座 分級は隔年で開催のため、H30年度は休講。

粉体エンジニア早期養成講座 粉体ハンドリングⅠ・Ⅱは、H31年度開講を目指し準備中。

6.2 製造事業部門 (石井興一マネジャー)

委員会開催予定:なし

活動:

- 1) 世界経済は、アメリカの保護貿易が懸念されるも、全体的に見て貿易は増加・拡大基調である。標準粉体の売上は、自動車、電気・電子向けが約 80%を占める。この業界の堅持と、それ以外の業界の底上げが必要である。
- 2) 標準粉体の頒布は一般社団法人の業務の一環として、社会に貢献すべく業務の効率化を計りながら進めていく。

収支計画:

(単位:千円)

	30年度予算
売上(千円)	95,000
(売上前年度比%)	103.2
事業費(支出)	67,000
収支差	28,000
(収支差前年度比%)	103.7

6.3 産学技術交流推進部門（後藤邦彰マネジャー、菅原一博副マネジャー）

委員会開催予定:3回

活動:

1) 技術相談

HPからの申込み HP 上の技術相談ページをわかりやすく改変。

引き続き、講演会、セミナー、展示会でDM配布をする。

技術相談申込 40 件、技術相談に発展 20 件をめざす。

2) テクノカフェについて

講座名	開催日	講演場所	参加者数
第 10 回テクノカフェ	H31.3.15	京都/未定	20

3) 粉体技術セミナー

APPIE 産学官連携フェアで注目を集めたテーマをとりあげるホットな話題の講演会として開催。

講座名	開催日	開催場所	参加者数
第 3 回ベストシーズ講演会	H30.10.05	京都/未定	50

7. 技術情報交流懇話会

7.1 火曜会： 東京にて 4 回開催する。

4 月 10 日、7 月 10 日、10 月 2 日、H31.1 月 15 日

7.2 水曜会： 名古屋にて 3 回開催する。

6 月 27 日、10 月 17 日、H31.2 月 13 日

7.3 木曜会： 大阪にて 4 回 開催する。

5 月 10 日、9 月 6 日、12 月 6 日、H31.2 月 28 日

7.4 金曜会： 福岡にて 3 回開催する。

7 月 20 日、11 月 2 日、H31.2 月 22 日

8. 共催・協賛及び後援行事

8.1 共催

(H30.4.1～H31.3.31 確定分)

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第35回エアロゾル科学・技術研究討論会	H30.7.31 ～8.2	名古屋/名古屋大学	日本エアロゾル学会
第 53 回技術討論会	H30.9.3 ～9.4	東京/東京大学生産技術研究所	粉体工学会

8.2 協賛

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第 35 回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	H30.4.24 ～4.2	東京/早稲田大学国際会議場	(公社)日本空気清浄協会
化学工学会「産学人材育成パートナーシップ事業」	H30.5.10 ～H31.3 月	東京、千葉	(公社)化学工学会
色材セミナー	H30.6.6	大阪/ドーンセンター	(一社)色材協会 関西支部
先端技術を支える単位操作シリーズ「粉粒体プロセスの必須理論とその活用事例」	H30.6.8	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会関西支部
FOOMA JAPAN2018	H30.6.12 ～6.15	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本食品機械工業会
第 24 回最新科学機器展 第 12 回計量計測総合展 最新技術セミナー	H30.6.27 ～6.29	名古屋/名古屋国際会議場	東海科学機器協会 (一社)愛知県計量連合会 フジサンケイ ビジネスアイ
[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会(RGB)シンポジウム	H30.7.4	東京/全国家電会館	(一社)日本エネルギー学会

第 16 回技術講演会	H30.7.18 ～7.19	京都/京都国際会館	新製剤技術とエンジニアリング を考える会
スマートエンジニアリング TOKYO2018	H30.7.18 ～7.20	東京/東京ビッグサイト	(公社)化学工学会 (一社)日本能率協会
粒子・流体プロセス技術コース 2018	H30. 8.30 ～8.31	東京/中央大学後楽園キャン パス	化学工学会粒子・流体プロセス 部会流動層分科会
INTERMEASURE2018	H30. 9.26 ～9.28	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本計量機器工業連合会

9. 刊行物

9.1 「粉体技術」

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 「粉体技術」編集委員会

発行 (一社)日本粉体工業技術協会

月刊誌 (1,500円・税別) (A4版 約90ページ 約1,500部/月)

9.2 日本粉体工業技術協会 事業案内(和文 2018年度版) A4版 11ページ

編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会

発行:平成30年6月(700部)

9.3 日本粉体工業技術協会 事業案内(英文 2018/2019年度版) A4版 11ページ

編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会

発行:平成30年6月(300部)

9.4 日本粉体工業技術協会 会員名簿(2018/2019年度版) A4版 114ページ

編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会

発行:平成30年9月(850部)

9.5 粉体技術総覧 2018/2019 A4版 約450ページ

編集/発行所:一般社団法人日本粉体工業技術協会

発行:平成30年11月(誌本 15,000部)

9.6 日本粉体工業技術協会開催の各種セミナー・講習会と教育部門の講座用テキスト

編集/発行所(一社)日本粉体工業技術協会 教育部門他

発行:各50～100部